

## 保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人 宇治福祉園
施設名	みんなのき三山木こども園
報告者（役職）	杉本 大洋（園長）
住所・連絡先	京都府京田辺市三山木中央三丁目 1-16
	☎ 0774-65-3715
	E-mail miyamaki@ujifukushien.or.jp

### ○タイトル（保育計画）

～揺れて・回って・潜って・投げて～ 体を感じて遊ぼう！

### ○主な助成備品

ポケットスイング・オーシャンスイング・ホーススイング・サンライトスイング・フレキサースイング・スペースリング・ハンモックなどの吊り遊具用品・ボールプール

## 1. 保育計画策定の目的

みんなのき三山木こども園では、コロナ禍の中、何かと制限の多い子どもたちの活動の幅を広げ、いろいろな体験ができるようにすることを目的に今回の保育計画を立案しました。また、遊具の安全性の問題から、一般の公園の中から回転する遊具などは撤去されていく傾向にあり、現在関わることは難しい状況にあります。そういった経験が失われることを防ぐことも今回の保育計画策定への思いです。

揺れや回転といった動きに対する感覚、肌に触れるボールの感触や視覚的な刺激を通じて、いろいろな操作に触れ、全身を使って遊ぶ楽しさを味わうとともに、体を使う力を育むことが期待されます。

## 2. 具体的な実施内容

各種吊り遊具においては、遊具自体に親しむために、遊戯室内に設置し実際に乗ってみるところから始めました。それぞれ、目的とする動きや感覚が違っており、日によって提示する遊具を変更しています。

～体を預けてみよう～

ポケットスイング・オーシャンスイング・ハンモックなどを設置し、緩やかな揺れの中で遊びます。これらの遊具に関しては図1の様に、体を横たわらせてまずは脱力してもらうことを目的としています。初めて乗る子どもたちは、緊張からうまく脱力できずにいる姿が見られました

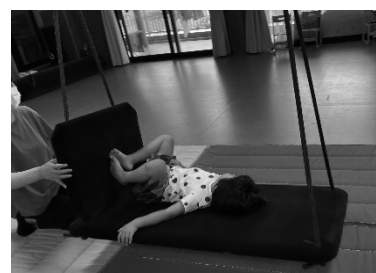


図1 オーシャンスイングに関わる様子

が、徐々に体を緩めてリラックスしていく様子がありました。併せて、表情もこわばっていたのがだんだんと柔らかな表情になっていく様子が印象的でした。

～いろんな動きを感じてみよう～

先ほどの遊具に加え、サンライトスイング・スペースリング（図2）などを設置して遊びを展開していきます。これらの遊具を取り入れるころには単純な横揺れだけでなく、揺らす方向を変化させたり、回転をくわえたりすることで、様々な感覚を体に取り入れることにつながっていきます。揺れや回転に対して親しむ中で、遊具の動きに対してどのような姿勢を取ればいいのか、どのような体の使い方をすればいいのかを感覚的に知っていきます。



図2 スペースリングに関わる様子

上手に乗れるようになってきた子どもたちは、体を寝かせるときも、うつ伏せや仰向けなど体勢を変えてみたり、座って乗ったり、立って乗ったりと様々な姿勢で遊びに関わり始める姿がありました。

～いろんな動きに挑戦しよう～

揺れや回転が十分に楽しめるようになった子どもたちには次の段階として、ホーススイング・フレキサースイング・スペースリングなどの遊具を取り入れていきます。

これらの遊具は、図3に示すように遊具にしがみつくと動きが求められます。回転や揺れのある中で、腕や足を遊具に巻き付けるようにしてしがみつくと全身運動を促します。

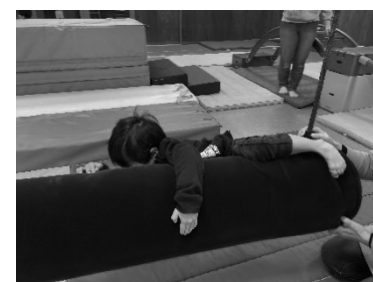


図3 ホーススイングに関わる様子。  
しがみつきがうまくなってきました。

最初のうちは揺れや回転は穏やかにし、腕や足を巻き付ける操作を習得することを大切にします。腕に関しては比較的早く使い方を習得しますが、足を巻き付ける操作に関しては苦手な子どもたちも多くいます。そのため、大人が足をもって一緒に操作することで、どのように体を使えばいいのかを知らせていきます。

図4の様に腕・足を使ってしがみつくと操作が十分に身についてきた段階で、揺れや回転の速度を上げることで、体にかかる負荷を高めていきます。このころになると、「何秒捕まっていられるかな?」「〇〇ちゃんと競争!」など自分たちで目標を決めたり競い合ったりするなど、ルールを取り入れて遊ぶようになっていきます。

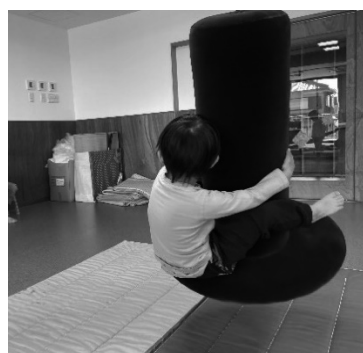


図4 フレキサースイングに関わる様子。回転も加わりより高度に。

ボールプールでは、全身にかかる圧感覚を楽しんだり、色や数などの抽象的な概念に親しんだりすることを目的に遊びを展開します。

～ボールプールでかくれんぼ～

図5では、ボールプールの中でかくれんぼを行っています。ボールの中に全身が隠れるように体を沈めていき、鬼に見つからないようにします。体をボールの中に沈めていくためには体を左右に揺さぶる動きが求められます。また、自分の目では確認することのできない自分の姿を想像することも同時に求められます。こういった遊びの中で、体の動かし方だけでなく、自分の体の大きさや形などに意識をむけることを促します。また、このときに「お手てが見えてるよ」「この足は誰のかな？」などの声かけをすることで、自分たちの体が今どのような状態になっているのかを想像したり、状況に合わせて体を動かしたりする経験を促します。

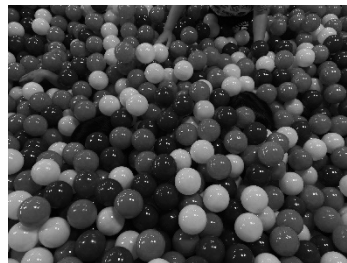


図5 ボールプールに関わる様子。  
よく見ると手や頭が見えています。

年長児など左右の概念に対する気付きや理解が進んでいる子どもたちには、「左足が見えている人がいる」など、左右の概念を声かけの中に取り入れていくことで、より自分の体への感覚を深めていけるような声かけをします。声かけだけではわかりにくい時には、「ほらここ」と言いながら、見えている部分を触ってあげることで感覚的にわかるように配慮します。そういった関り続ける中で、少しずつ自分の体をうまく隠すことのできる子どもが増えていきました。

～ゲーム遊びをしよう～

数や色に親しむことを目的に、ボールプールの中で玉入れ遊びや、お使い遊びなどのゲーム遊びを展開していきます。

玉入れでは、「このバケツとおんなじ色の球を入れてね」といったルールや、「○○チームは赤色、□□チームは青色をいれてね」といったルールで遊びを展開します。その中で、視覚的に見て同じ色を探すといったことや、言葉を聞いてルールを理解して遊ぶ経験につなげていきます。また、遊びの中で「何個入ったかな？」「どっちが多いかな？」といった言葉かけをすることで、数・量への興味関心を高めていきます。

お使い遊びでは、ミッションと称して「赤色を3個取ってくるのだー！」と具体的な色名や数を伝えたり、「りんごがたべたいなー」など、直接的な色を言わずに連想されるものを言葉かけに入れたりしながら遊びます。そうする中で、色や数の理解を深めていくこと、イメージを広げていくことを促します。慣れてきたら子どもたちにもミッションを出す役をしてもらうことで、大人のイメージだけでなく子どもたちのイメージを引き出していけるよう配慮します。

### 3. その成果と評価

吊り遊具を用いた遊びの展開の中では、今までに経験したことが少ない動きであったこともあってか、乗ることへの抵抗感を感じる子どもや、どのような姿勢を取っていいのかわからない様子の子どもの数名いました。しかし、継続して提示することで、次第に揺れる感覚や回転の感覚に対して親しんでいき、全身の力を抜いてリラックスする様子や、全身に力を込めてしがみつこうとする様子が見られるようになりました。このことから、継続的に環境を提供することでより一層の効果が得られるものと考えられます。

また、運動が苦手な子どもにとっては、環境を調整することで関わりを促すことができました。ハンモックやポケットスイング、オーシャンスイングなどは、遊具に体を預けるだけでいいという操作の簡単さや、大人と一緒に乗ることのできる安心感から比較的抵抗感が少ない中で関わることができました。そのうえで「自分も遊具に乗ることができた」という達成感を感じている様子も見て取ることができ、今回設定した遊具に関わることのメリットを感じているところです。

上記の結果とともに重要な点として、今回経験した動きが他の運動環境にもつながっているように感じられたことがあげられます。例えば、鉄棒や雲梯といった、ぶら下がる操作が求められるようなものでは、手に力を込める感覚がわかりにくかった子どもが、感覚をつかむなどの姿がありました。

### 4. 今後の課題と展望

今回実際に保育環境を設定して感じた事は、いろいろな動きや感覚に触れることが、子どもたちの動きのバリエーションを増やしてくれるという事です。そして、この効果を最大限発揮するためには単発での活動にとどまらず、継続性を持たせることが重要であるという事です。しかし、実際には見守りの人数の問題や、設置・片付けにかかる手間などから、遊具を出す頻度に関しては決して高いとは言えない状況にあります。今後、環境の調整や人事の調整を行いながら、子どもたちへの提供機会を増やしていくことが課題としてあげられます。

また、現在は遊具に乗ることをメインとしていましたが、風船やボールといった別の素材と組み合わせながらゲーム遊びなどを展開していくことで、より、複雑な操作に触れられるようにしていきたいと考えているところです。

以上